



建設中の地震に強いTIP構法の家(尾鷲市三木里町で)

耐震2.7倍木造住宅

三木里
で建築 18日現地見学会

地震や台風などの強風を呼びかけている。

に強いTIP構法と呼ばれる木造住宅が尾鷲市三木里町で建築されている。18日午前10時から午後5時まで現地で見学会が開かれる。多くの来場

TIPとは「三角形の

接続用合板」を意味し、元東京工芸大学の西秀夫教授らが開発した木造住宅用耐震工法。剛性、強度、靱性、復元性に優

れており、住宅金融公庫融資住宅の2・69倍の耐震強度を持つ。

外壁の下地板を斜め45度に張るのが特徴。下地板が筋交いとしての役目を果たし、強度を高める。柱と土台などの横材を固定するのに三角形の合板を使用する工夫で耐震性も高めている。

阪神大震災では同構法の住宅にほとんど被害がなかったことで注目を集めた。建築費は坪単価60〜80万円で、在来工法に比べて1%ほど高いという。リフォーム工事にも活用できる。

三木里小学校の南側に建築中の住宅は木造2階建て延べ165平方メートル(1階99平方メートル、2階66平方メートル)。施主は同町の公務員東久文さん。京都府城陽市の愛媛工務店が同構法で建築している。柱と土台にヒノキを使用。外壁にはスギ板(幅10・5センチ、厚さ1・2センチ)が斜め45度で一面に張られている。4本の通し柱はアンカーで固定。垂木もすべてひねり金具で固定されているため、屋根が飛ぶことはないという。

建築費は坪単価65万円。TIP構法での建築は東紀州地域では初めてという。